

## 百日紅（さるすべり）の花

島根県柔道連盟 副会長 花本茂人

今夏もまた、鮮やかな紅と白の百日紅の花が咲いた。

例年と一段違う色の濃さで、良いことを予感させるものがあった。

令和6年8月18日第78回佐賀県国民スポーツ大会の柔道競技中国ブロック大会が島根県（松江市:県立武道館）において開催された。少年男子は県単で出場が決定のため、本大会出場は成年男子（1枠）と女子（2枠）の2パートである。昨年度の第77回鹿児島特別国民体育大会において少年男子が並み居る強豪県を突破し、準優勝の快挙を成し遂げた。今年のブロック大会もその勢いを借りて健闘してくれることを祈りながら大会を見守った。

近年、島根県出身者は他県において高校或いは大学・実業等で活躍し、日本の代表選手で世界大会において優秀な成績を収めている現状がある。今大会も県出身者が他県代表として出場している。女子では岡山県の椋木美希選手（高津中一創志学園高一環太平洋大）。男子は岡山県の安達健太選手（出雲一中一作陽高一東海大一作陽高教員）、広島県の下田雄太選手（開星高出身）等である。各々島根での経験を活かし、各県の代表として自覚と使命をもって立派に戦いに臨んでいる。島根のスキルの高さを証明しているところだが、こゝと国スポに関しては島根に立ちはだかる壁となっている苦しい現状ではあるが、誠に喜ばしいことと言えよう。

さて、試合の方であるが女子の岡山県（創始学園、環太平洋大で編成）を除けば男女共、力が拮抗しており近年にない緊迫した試合が予想される。本県成年男子は開星高卒の学生が3人、同高教員と平田高卒明誠高教員で編成される。平均年齢が24歳と若く、珍しく県警選手が一人も出ていない未知数の力を持ったチャレンジチームで臨むことになった。女子は出雲西高、同卒業生3人と平田高1名で挑む。男子初戦は県警と全日本選手権2位、オリンピック出場経験のある原沢選手を有する山口と対戦し、4対1で完勝。4点は